



■発行所  
福井市大手3丁目2番18号  
農業会館内  
福 井 県 農 政 連  
電話 (0776) 27-8265

■発行責任者  
伊 阪 民 裕

「持続可能な農業を目指して」

農村の維持・活性化が不可欠



福井県農政連会長 岡 田 高 大

新年を迎え謹んでご挨拶を申し上げます。盟友の皆様には、ご家族お揃いでご健勝にて新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

又、日頃は農政連の各事業に対し、ご理解、ご協力を賜っておりますこと、心より御礼申し上げます。

昨年の第27回参議院通常選挙において、福井県選挙区で滝波宏文氏、全国比例区では東野秀樹氏が無事当選出来ましたのは、盟友皆様のおかげと重ねて御礼申し上げます。

さて、7年産米の作況は全国で作況単収指数102、福井県では103となっています。5年産米より続く需給のギャップによる米不足により生産者米価、消費者米価ともに高騰し過去最高値となっています。

一方、7年産米は主食米の収穫が748万トンとなり8年6月末の民間流通在庫予想は200万トンを大きく超過する事が予測され、8年産米の米価が大きく下落することが懸念されますが、昨年度放出した備蓄米の買戻しが価格安定の焦点となっています。高市内閣においては、需要に応じた生産ということで、8年産

米の生産目安を711万トンとして提示しています。

我々農業者は生産コストを反映した、再生産可能な米価を消費者の理解も得ながら、形成される事を希望します。農政連、JAグループとしては、昨年閣議決定された今後5年間の「農業構造転換集中対策期間」とする中で、食料安全保障の強化、持続可能な農業の推進、地域の活性化等強く働きかけてまいります。

昨年発表された2025年農林業センサスでは、農業者の大幅な減少が続いています。この傾向は今後も続く事が予想されます。農地の面的集約が進み大規模化が進む一方、中山間地をはじめとする個人農家の減少が地域コミュニティや農地の保全にもたらす影響等も考えねばなりません。農政連は地域農業の振興に貢献していくと同時に、私たちの大切な資源である農地や農業従事者を守るため、政策提言や支援活動に全力を尽くしてまいります。

最後になりますが、午年の令和8年盟友皆様にとって大きな飛躍の年、幸多い良い年となります事をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とします。

「食と農を支え、豊かな暮らしと

活力ある社会を実現するために」



JA福井県五連会長 宮 田 幸 一

新年あけましておめでとうございます。日頃より、本県農業の振興・発展と、需要に応じた米生産の取り組みについて、ご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。旧年中は、組合員の皆様をはじめ地域の皆様に格別のご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年も、全国的な猛暑や渇水など厳しい気象条件が続き、米をはじめとする農産物の生産に一部影響を受けました。その一方で、福井県のブランド米「いちほまれ」や「コシヒカリ」は引き続き「特A」評価をいただき、ひとえに組合員の皆様の努力と地域の結束の成果であり、改めて深く敬意を表します。

さて、2025年農林業センサスの結果によれば、福井県の農業経営体数は約7千8百となり、5年前に比べて大きく減少しました。特に基幹的農業従事者の減少が顕著であり、担い手不足と高齢化が深刻化しています。一方で、法人経営体は増加傾向にあり、規模拡大や効率化を進める動きが強まっていることが明らかになりました。また、経営耕地面積についても大型化が進み、20ヘクタール以上の経営体が県内でも増加しています。

福井県の農業は、水田を中心とした米作に加え、大豆、そば、六条大麦などの畑作、そして「福井梅」「上庄さといも」「吉川ナス」などの特産品に支えられています。これらは全国的にも高い評価を受けており、地域農業の誇りです。

これらを守り戦略的に展開することで、

福井県の持続可能な農業を作り上げなければなりません。

福井県JAグループでは、昨年11月に第27回福井県JA大会を開催し、JAグループの存在意義やJAの目指す姿の実現に向けて、協同活動と総合事業で地域の食と農を守り育てるために挑む『3つのチャレンジ』を提起しました。

①農業の新たな価値を生み出すチャレンジ  
②地域社会の課題解決に向けたチャレンジ  
③組合員・役職員のつながり強化に向けたチャレンジ

これらの取り組みは、JAグループの長期的な方向性を再確認し具体的な取り組みと成果につながるよう実践してまいります。

本年も、組合員の皆様が誇りを持って営農に励み、地域の農業が豊かに発展していくよう、持続可能な生産と農業所得の安定に向け全力で支援してまいります。

農業は地域の暮らしを支える基盤であり、食の安全・安心を守る使命を担っています。地域の食と農を次世代へとつなぐといった責任を胸に、皆様とともに歩み続けます。

皆様にとって、健康で実り多き一年となりますよう心より御祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



謹 賀 新 年

会 長	岡 田 高 大
副 会 長	有 田 正 信
副 会 長	幸 池 享
会 計 責 任 者	平 山 彌 利
監 査 委 員	黒 田 宗 雲
〃	呉 林 堅

福井市支部支部長	岩 崎 眞 次
永平寺町支部支部長	平 山 彌 利
坂井市支部支部長	有 田 正 信
あわら市支部支部長	山 口 志 代 治
大野市支部支部長	黒 田 宗 雲
勝山市支部支部長	石 橋 政 光
鯖江市支部支部長	齊 藤 雅 幸
池田町支部支部長	松 倉 治 和
越前町支部支部長	笠 原 義 和
南条支部支部長	大 塚 与 四 郎
敦賀市支部支部長	鶴 光 雄
美浜町支部支部長	石 丸 博 治
若狭町支部支部長	呉 林 堅
小浜市支部支部長	幸 池 享
おおい町支部支部長	猿 橋 啓 一
高浜町支部支部長	井 ノ 元 康 夫
県農協青壮年部会長	田 中 隆 藤
JA県女性協会長	高 島 美 津 子



## 県議会農政議員団との 意見交換会開催

10月28日(火) 県農業会館にて、福井県農政連・県五連・JA福井県・JA越前たけふの役員と、県議会の農政議員団との意見交換会を開催しました。全国の農政をめぐる状況を、全国農政連金井副会長より説明頂き、福井県情勢については、JA県中央会の小林英範部長より説明を頂きました。

その後、各支部より直面している農政課題等について報告、要請があり、議員各位よりのご意見を頂きました。各地区共通の課題としては、農業後継者不足の問題、鳥獣害の農業被害の問題、再生産が出来る米をはじめとする農産物価格の問題、中山間地の農地維持に対する問題等があげられています。令和9年から始まる新たな農業政策の中で、予算を確保しながら各問題に対応が必要との認識で一致しました。



## 第63回福井県農政連 幹部研修会開催

11月17日、第63回農政連幹部研修会をあらわ市のレストランにて開催しました。研修会には農政連の支部長・分会長やJAの役員200名が参加され、来賓として中村副知事、田中三津彦県議会副議長、山崎正昭参議院議員、他多くの県議会議員のご臨席を賜りました。冒頭岡田会長の挨拶では、来年6月を目途に2027年度からの新たな水田政策を政府が策定するに当たり、我々が困っている事、農業をよくする為にするべきことを積み上げて国に訴えて行きたいと述べました。

研修会では衆議院議員の前自民党幹事長の森山 裕氏が「これからの日本の農業について」と題して講演し、今年閣議決定された今後5年間の「農業構造転換集中対策期間」で既存の予算とは別枠で2兆5000億円を確保する方針を示しました。また実質のスタートとなる補正予算でも農業予算の増額に向けて調整しているの活用してほしいと呼びかけました。

続いて参議院議員の東野秀樹氏は、「直面する農政課題」について講演、食産業センター理事長の荒川 隆氏には「改正基本法と今後の農政の展開方向」と題して講演を頂きました。



## 福井県知事選立候補者 山田賢一氏を推薦



県農政連では12月24日、県農業会館9階大会ホールにて選挙対策委員会を開催し、令和8年1月の福井県知事選挙推薦候補者として南条支部・鯖江市支部より推薦申請されている山田賢一氏を全会一致で推薦決議しました。山田候補との政策協定では

- ①県民の農畜産物価格の理解醸成
- ②経営の安定に向けた対策について
- ③共同利用施設の再編集約について
- ④水田農業対策について
- ⑤園芸対策について
- ⑥畜産対策について
- ⑦鳥獣害対策について

### プロフィール

1958年 福井県今立町に生まれる  
1983年 京都大学を卒業  
1983年 福井県庁に入庁  
2017年 総務部長  
2017年 福井県副知事  
2019年 福井県立大学理事長  
2021年 越前市市長初当選  
2025年 無投票にて2選

## 農 家 数

過去最大 25%減少

2025年度農林業センサスの調査結果によると全国の「基幹的農業従事者」は102万1000人と、5年前の調査から34万2000人(25.1%)減少した。平均年齢は67.6歳で初めて低下に転じた。農業経営体は24万7000人減少し82万8000経営体となった。個人・家族経営の経営体が24万8000人減少したが、法人をはじめとした「団体経営体」は1000組織増えた。

○農業経営体  
経営耕地面積が30a以上の規模の農業者・露地野菜15a以上・果樹栽培10a以上他

○基幹的農業従事者  
農業を主として従事した世帯員(農業就業人口)のうち1年間のふだんの主な状態が「仕事に従事していた者」

## 福井県の農林業センサスデータ

組 織	2020年	2025年	変 化	意味合い
農業経営体数	10,546	7,767	▲26.3%	統計開始以来最大の減少
(5ha未満)	9,523	6,781	▲28.7%	87.3%を占める小規模が減少
(5ha以上)	1,023	986	▲3.6%	30ha以上になると増加
基幹的従事者	8,767	5,815	▲33.7%	高齢者を中心に離農
法人経営体数	414	440	6.2%	受け皿として法人の成長
青色申告経営体	3,819	3,496	▲8.45%	個人から組織で割合として増
平均耕地面積	3.1ha	4.0ha	29.0%	残存者への農地集積

## 参議院議員

東野ひでき国政報告

令和6年3月にJAグループの推薦候補となつてから500日あまり、全国各地を駆け巡り、JA組合員・役職員をはじめ農政連の盟友皆様の多大なるご支援により、立派な得票数で当選を果たすことが出来ました。心より御礼申し上げます。

JA役職員の声を国政に反映させる事です。10月21日開会の第219回国会において、参議院農林水産委員会の理事に選任されました。農林水産現場をはじめ、JAや地域を支える関係団体の願いを政策に反映出来るよう、これからも全力で取り組んでまいります。引き続きご指導、ご鞭撻を宜しくお願いします。



自民党・農業構造転換推進委員会での発言

## あとがき

年頭から知事選挙とあわただしい年の初めを迎えましたが、今年1年無事災害も少なく、猛暑もなく、米価も安定した年になるよう祈念します。



農政連ホームページ